４月９日「タウンニュース」

人物風土記

筆字は上地克明市長

元校長は天性の世話好き

※引きこもり者の就労支援に取り組むNPO法人こどもの夢サポートセンター理事長

鈴木 明さん

鹿取出身　71歳

○…市の委託を受けて2015年、元教諭らで法人を設立、メンバー約50人のリーダーとして、市内6会場で中学3年生に学習支援を行うほか、放課後子ども教室の運営にも携わり、農業や英語、図工などを先生に指導してきた。今月10日には新たに引きこもり当事者を対象とした拠点「夢カフェ」を開設。「利用者が自由にのんびりした時間を過ごせるような場づくりに力を入れたい」

○…14年前から引きこもり者の就労支援を始め、昨年から訪問を始めた。「悩める人を一人でも多く救いたい」

かける。「焦らず待つこと」と「ゆっくりと会話を重ね、そのうち一緒に料理や電車の乗り方、銀行で記帳の仕方を教えたり、出来ることから始めていけば道は開ける」

○…鹿取出身。元国語教諭として市内の中学校に。退職後も手伝うようになった。「今や当たり前の景色だけれど、菜の花や桜のなかを子どもたちが登校する姿をずっと思い浮かべていた」

○…定年後の趣味はジャム作り。ひと月に100瓶。パインやチョコバナナといった変わり種を子ども教室の児童に届け、みんなから「ジャムおじさん」と言われている。「趣味も支援もどっぷりこだわりたい。これからも自分のライフワークとして、横須賀が抱える社会問題に立ち向かい、悩める人を一人でも多く救いたい」

こどもの夢サポートセンター鈴木理事長が人物風土記に紹介されました。

「夢カフェ」開設

引きこもり者の交流拠点４月10日オープン

「夢カフェ」立ち上げに向けて会議を重ねるメンバーたち

引きこもり者の交流拠点

NPOが「夢カフェ」開設

NPO法人「こどもの夢サポートセンター」（鈴木明理事長＝人物風土記で紹介）は今月10日、16歳以上の引きこもり当事者または経験者の交流拠点「夢カフェ」をオープンする。毎週土曜に開放し、利用は無料で、過ごし方や出入りは自由。好きな飲み物を片手に悩みの相談も受けつけ、気軽に立ち寄れる居場所づくりを目指す。

横須賀市から委託を受け、引きこもり者の就労支援などに携わっている同法人。当事者が協力企業との職業体験を通して社会性を身につけているほか、昨年6月には「アウトリーチ」（訪問支援）も開始した。引きこもりから抜け出した人も増えた一方で、その後もセンターを訪ねる人が多かったという。「自宅と職場の往復のみで、ほっとする場がないのでは」と鈴木理事長は危機感を募らせ、市に相談。日常の中で心の拠り所となれるようなカフェを運営することに決めた。

鈴木理事長は「テレビを観たり、パソコンやゲームをしたり、出来るだけ利用者の要望を尊重し、相談にも乗りたい。のんびりできる快適な場所を提供できれば」と話している。

場所は小川町28の1横須賀ハイム205。各日午後1時から4時。問い合わせは法人事務局☎046・876・7151